

## 委員会等の会議録

1 会議名	第2回 愛南柑橘営農環境改革推進協議会	
2 議題	1) 第1回座談会の報告等について(意見交換) 2) アンケート調査について(意見交換) 3) 今後のスケジュールについて	
3 開催日時	平成28年10月7日(金) 14時00分から17時00分まで	
4 開催場所	愛南町役場2階 第1会議室	
5 傍聴者数	0人	
出席者		
6 委員氏名	吉村 克己、原田 達也、河野 仁、吉田 浩、小野山 純平、 酒井 眞理子、山本 哲也、山田 聡、塚岡 啓三、松田 昌治、 西崎 梅一、木村 勝彦、藤田 重徳	
7 担当所属	所属名	農林課
	担当職員 (職・氏名)	課長補佐 尾崎 弘典 課長補佐 小野山委員 武士 係 長 近平 高宜
8 その他の 出席職員	所属名	いよぎん地域経済研究センター(IRC) ※本事業の委託者
	出席職員 (職・氏名)	主席研究員 黒田 明良 主任研究員 灘野 由子
議事内容(次ページから)		

発言者	発言内容
<p data-bbox="256 248 384 282">吉村課長</p> <p data-bbox="280 344 363 378">I R C</p>	<p data-bbox="488 248 707 282">(開会あいさつ)</p> <p data-bbox="488 344 932 378">(第1回座談会の報告について)</p> <p data-bbox="469 389 1382 517">I R C 灘野氏が配布資料に基づいて第1回座談会結果の概要と統計資料等から見た愛南柑橘生産の2025年の姿について説明した。</p> <p data-bbox="488 533 834 566">(第1回座談会結果概要)</p> <p data-bbox="469 577 1382 757">8月に行った6日間の座談会は延べ76名の参加者(実質67名)を得た。課題として多く挙げられたのはインフラ整備、担い手であった。また、地区別での意見の違いについても説明した。</p> <p data-bbox="488 772 1350 806">(現状から見た愛南柑橘生産者の2025年の予想される姿)</p> <p data-bbox="469 817 1382 1048">農家数と販売農家数が減少し、2025年にはそれぞれ210経営体、120経営体となるものの、生産量は横ばいと見込まれる。一方、耕作放棄地が増加し、担い手となる経営体への農地のスムーズな移動や基盤整備による効率化等が課題となる。</p> <p data-bbox="469 1064 1382 1243">こうした結果を受けて、課題を①担い手の確保、②インフラ整備、③組合・共選・個選、④6次産業化・ブランド化、⑤その他、と主に5つに大きく分類し、以下、中分類、小分類に整理した。</p> <p data-bbox="504 1258 1350 1292">このうち、大きな部分(大分類等)について意見交換した。</p>
<p data-bbox="256 1350 384 1384">吉村課長</p>	<p data-bbox="469 1350 1382 1478">「担い手の確保」から「その他」の5つの項目について、すべてプランづくりするのは難しい。優先順位についてはどうか意見を頂いて今後のプランづくりに役立てたい。</p>
<p data-bbox="256 1543 384 1576">酒井委員</p>	<p data-bbox="469 1543 1382 1861">後継者はいるが、まだプロとはなっていない。というのも、日々の消毒やそのほかの作業が計画的にできにくいため。その原因は園地がきちっと整備されていないことがあり、人の手でやらないといけないため。基盤整備して機械化等ができれば効率化する。担い手の育成も図りたいが、人を雇うとなると給料の確保が必要で、そのための資金支援を考えて頂ければありがたい。</p>
<p data-bbox="256 1928 384 1962">吉村課長</p>	<p data-bbox="469 1928 1382 2004">必要な園地の整備は、樹園地までの道路か園内道か、灌水設備か、SSか。</p>

酒井委員	樹園地までの道路と園内道の両方である。園地に行く道は2tダンプが通れるようにしてほしい。私たちでは運転できない。
吉村課長	長月地区はパイプラインがないが、用水はどうされているのか。
酒井委員	灌水は大久保山ダムの水を畑の上のタンクに入れて行っている。
西崎委員	給料の財源が課題ではないか。伊方町では、現状は年配の方が支えているが、若い人たちの就農を促すため、45歳から60歳に補助対象を引き上げたい。緊急的な行政的補助があれば、そのあとに若い人を育てるような支援でもよいのではないか。愛南町は、もとは津島出身の方が多いうのだが、のんびりしており、農業一本で生きてきた。売上が上がらない中では、プロジェクトは立上げにくいと考えている。ハード面は行政でできるかもしれないが、売上の向上につながるソフト面が課題と考える。
木村委員	<p>「課題と対応策の整理」の中で、「期待できる効果」は重複しているものが多いため、まとめることができればさらに分類を整理できるのでは？と考えたが自分ではできなかった。会社経営では、要素として人・モノ・カネに情報が加わるが、同じように今回はどれかに分類しようと思ったが難しかった。</p> <p>「トップランナー制度」と呼ばれるもので、儲かるとなるとみんなが一斉に飛びつくことがあるが、愛南町のトップランナーを広めて、それをマネしてもらおうことで、新しい面が出てくるということも考えられる。</p>
小野山委員	<p>経営者としての意識改革が重要と思う。青年農業者の会長をしているが、青年農業者は皆、単なる生産者である。「現状から見た愛南柑橘生産者の2025年の予想される姿」の資料で所得が1000万円を超える経営数がこれほど少ないとは思わなかった。所得を上げ、人を雇うことができるようになるための「経営者としての意識改革」が要るのではないか。</p>
吉田委員	課題と対応策について、すぐにどうすればいいかはわからな

	<p>い。最近、農地を借りてくださいという農家が増えている。基盤整備も大事だが、農地を引き受けるためには労働力を確保しなければならない。臨時雇用を確保できないので、10、20代の若い雇用者（社員）を増やして、育ててみたいと考えている。</p> <p>余談ではあるが、販売管理も強化したいが、適当な人がいないので銀行からの出向者の受け入れも考えている。今年は業績も良かったので、ボーナスを多く出してみた。昇給規定もきっちりつくって、（あそこはボーナスが出たという）噂で人を呼べないかと考えている。愛南町で人を確保したいが、無理であれば、全国で求人したい。</p> <p>お金を借りる際に「事業の継承者はいますか？」と聞かれるので、事業を引継いでもらえる人を育てることが課題と考えている。</p>
河野委員	<p>最も大きいのは、担い手不足、人手不足である。八幡浜のみかんアルバイトは、小学校の廃校を利用しているとのことであるが、愛南町では南レクロッジを利用できないものか。</p> <p>インフラ整備について、平山地区は柑橘栽培を始めて50年経つが、50年前から品種改良を兼ねて圃場整備を行っており、作業効率の良い園地となっている。さらになんとか楽に仕事できる環境を作ってもらいたい。町道の整備に合わせて園内道の整備を行ってほしいが、新規でないと補助対象とならないという事だが、なんとか古い園地でも対象になるような事業が欲しい。</p>
吉村課長	園内道は広くするのか、コンクリート造りとするのか。
河野委員	コンクリート舗装というイメージで考えている。
原田委員	<p>大分類は「担い手の確保」が最も重要。青年就農給付金制度で年間150万円、期間5年間なので、5年以降のことを心配している。柑橘栽培では5年では成木にならないし、売上をあげるのは厳しい。5年後に助成ができればと思っている。</p> <p>今年、大学卒業の息子がいるが、就農する踏ん切りがつかなく、大阪で就職した。うちの経営をみて、農家は天候に左右される、年によって大赤字となる、安定した職業につきたいというイメージになったが、収入保険の制度を農業にも取り入れる</p>

	<p>ことができれば、リスク回避ができ、若い人が安心して就農できるのではないか。</p>
<p>松田委員</p>	<p>「担い手の確保」である。季節労働者が不足している。収穫時期の畑は管理できるが、収穫が間に合わない。季節労働者の受け入れを強化してほしい。</p>
<p>塚岡委員</p>	<p>大項目はどれも大事だ。今、経営を考えた中で規模拡大につながってない、なぜか？やはり労働力不足である。ここで人をやすくというか、それなりの収入があれば、規模拡大できるのだが、人材を効率的にすることで拡大ができないかと考える。基盤整備でいうと、吉田町ではスプリンクラー防除を導入して、人手を削減でき、栽培に人手を回すことができ、規模拡大につながった。また、消毒などの労力の軽減で収益の拡大にもつながっている。インフラ整備も欠かせないと考えている。そういうところで機械の導入など町の方で使い勝手のいい補助金があればスムーズに経営に生かしていける。</p>
<p>山田委員</p>	<p>全部カネにかかってくる、農家が儲ければ、すべてうまくいくと考えている。選果場で晩柑を売ったが、農協は安くそれに対して市場は高かったため、市場に流れて、選果場に集まらなかった。お金の話できたないかもしれないが、農家が儲ければすべてうまくいくと強く感じた。</p>
<p>山本委員</p>	<p>放任園が増えてきている。放任園を防ぐ基本はインフラ整備であろう。インフラ整備できている所は人が受けてくれるが、それ以外はイノシシの巣になっている。(静岡県の)三ヶ日に行って、聞いたら、放任園がほとんどない。やめる人はいるが、その土地は、中間管理機構などを使って、近所の人に斡旋する。園地を見ると灌水用のパイプは入っているし、道は凸凹がない。インフラが重要と思う。</p>
<p>藤田委員</p>	<p>座談会にも一か所参加させて頂いた。プランに盛り込むべきことは「担い手不足」か。担い手については、人が欲しい、経営者としては人材育成もという話もあった。人を入れるだけの環境整備を行わなければならないという事は共通した思いだと感じた。みなさんの要望を踏まえて、他の地域の事例もあるため、地域の資源（南レクロッジなど）を活用する、そういうし</p>

	<p>かけもできるのではないかと考えている。</p> <p>インフラについて、愛南町は素晴らしい環境にある。大洲、東宇和、西予、吉田、宇和島は、ミカン畑が海まで急傾斜地だが、愛南は総じて平坦である。ちょっと小高い山の上に甘夏圃場があって、基盤整備された園地がある。道も作業道も数があって、整備されている。どちらかというとなまめしい環境で、吉田の方が来られることはあっても、こちらから行くことはない。若い人がとどまるような環境にあると思う。</p>
I R C	<p>(農地の流動化について)</p> <p>座談会に出て頂いて、一番の課題について発言頂いたが、資料「現状から見た愛南柑橘生産者の2025年の予想される姿」で示したように、今後高齢の方が経営できなくなって、放任園が増えてくると予想されるが、これから担い手の方に農地をいかに集約していくかが重要となる。10年後を見据えて、そうした点でご意見はないか。</p>
原田委員	<p>農地中間管理機構はどうなっているのか？</p>
吉村課長	<p>国は農地中間管理機構を押し出している。それによって耕作放棄地を再整備するというのが国の整備方針だが、愛媛県の事務局の方針で、愛媛県はそういうことはできておらず、愛南町では実績ゼロである。10年以上の貸し借り、貸す方がリタイアとか、登録制であったり、相対でない取り扱いがなかったりと、運用で縛りが多い。園地の場合は農業委員会の貸し借りでいいのではないかという意見もある。農地中間管理機構を使えば出し手が協力金を受けられるといういい面もあるが、より大きな面積ならさらにメリットがあるかもしれない。</p>
原田委員	<p>愛南町は水田の貸し手が増えているが、担い手が極端に減っている。</p>
吉村課長	<p>農地バンク的なことも今後必要なのかなと考えている。</p>
山本委員	<p>中間管理機構的なものが、以前、JAにはあったが今は機能していない。</p>
吉村課長	<p>大きな圃場整備を行う場合には中間管理機構を使った方がいい</p>

西崎委員	<p>いのではないかとと思っている。</p> <p>「守るべき農地は守る」というのが基本の理念であるが、会議に幻滅している。「守るべき農地」の地域は北海道等で愛媛は管理対象になっていない。北海道や新潟の農地を対象とし、愛媛の園地は上乘せをしないといけないから預からない、政府の説明は読み方によってはそのようにとれる。農業委員会とか、地元同士の相対のほうが良い。行政の方や農協が仲をとりもつというか、そういう昔からの役割を復活させるべきではと考えている。</p>
吉村課長	<p>愛南町としてはそれがいいと考えている。耕作放棄地はできるだけ作りたくないという思いはある。</p>
I R C	<p>(担い手、人手の確保について)</p> <p>改革プランにどういったものを取り入れていくか。この中で、どれを入れていくのか、いろいろと要望があるが、どう絞っていくか、ご意見を伺いたい。</p>
吉田委員	<p>認定農業者としての立場で言うと、「担い手の(季節労働者で)確保」が急務だと思う。総務省の地域協力隊など、いろいろな施策があるが、間に合わない。外国人労働者や季節労働者をいかに確保するのか？</p>
西崎委員	<p>労働キャラバンみたいなのがある。西宇和の人たちが受け入れているのは、西宇和の人たちが開放的だからだということ saying 言っていた。</p>
吉村課長	<p>先日の農業者フェスティバルで話題となったが、西宇和以外ではどの地区でも成功していない。今、愛南町としては、担い手、人手不足をどう解消するか、実際に雇うという場合に、どう受け入れするのか。行政としては宿泊するところはどうするか。どういう方法が妥当か聞きたい。</p>
吉田委員	<p>給与や待遇ではない。それが一番難しい。地域の人の人柄とか景色(夕日)とか。八幡浜の真穴の良さで来ているようだ。</p>

吉村課長	町の就職支援センターでも使えば賄える分があるのではないか。登録している60、70歳の方はなかなか働けないというが、それなりに働く方もいて、使う方がうまくできれば使えるのではないか。高知のシルバーは良く働くというが、文旦の方が晩柑より早い収穫であり、ダブらないので来てもらえるのではないか。
吉田委員	八幡浜の真穴地区の場合、労働者のレベルは高い。「真穴はいいよ」とネットワークがすごくて、志の高い人が集まる。市の職員も是非とは言っていたが、受け入れ態勢が課題である。
小野山委員	愛南町のように長いところにとどまりたいというはあるのだろうか。愛南の場合は3月～6月と下手すると4ヶ月とかになるが…。
原田委員	可能性があるのであれば、プランに入れてはどうか。
吉田委員	マルエムでは以前、季節労働者の受け入れをやっていた経緯がある。宿泊がネックになるが、皆で何人必要になるのだろうか？
山本委員	宿泊費用を払うだけの覚悟が農家にあるのか？
河野委員	町の方で負担していただくことはできないのか。
吉村課長	タイミングだとも思う。負担をどうするかという問題はあるが、そういう要望を入れることは考えるべきなのかなと思っていて。柑橘農家の優先順位が高いのであれば、農地の流動化で規模拡大も見込める。やるとなればある種の意図がないとできないのではないか。
西崎委員	定年退職者は使い物にならないのか、高齢の方はどうか。以前使った高齢者は、田の草刈は二度と来ないと言ったが、みかんはどうだろうか。
原田委員	シルバー人材センターを通して、60歳以上の方がどれくらい働くことを希望しているのだろうか。



吉田委員	多分ハードな作業はさせていない。
松田委員	最初はシルバーもまじめだったが、今は我々の4分の1も働かない。昔に比べて作業効率は半分ぐらいになった。あの労働力ではとてもお願いできない。
I R C	(加工、六次産業化について) 担い手について伺ったが、もう一点、六次産業化の中で、加工についてはどうか。座談会でも加工場が町内にあればという意見があった。
松田委員	加工するために町外に持って行って、持って帰ると手間がかかっている。町内で済ませることができれば農家は楽になると思う。うちでは、担い手の季節労働は夏場に暇になるので、夏場に加工場が稼働すれば、就労期間の長期化のための労働環境につながる。やり方はわからないが、運営はどこかの個人を頼むか、行政で頼むかという事になるのか。
I R C	町外で加工しているところでは、運搬賃だけでもメリットになる。冬場だけでなく、就労確保にもつながるということか。
松田委員	はい
原田委員	受け皿、だれがするかということになる。一番いいのは農家であるが、加工に手を広げる余裕がない。そういう専門の人材を確保できればいいが、人材を募集してやっていければ加工場を建設してもいいと思う。
小野山委員	マルエムはジュースについては町内では絞っていない。年間何本、何万トンくらいか知らないが。
松田委員	第一マルエムでは10tくらいである。宇和島市吉田委員の愛工房なら100kg ぐらいのロットから加工(搾汁)をやってくれると思う。
吉村課長	だれがするかという問題があるが、行政としては費用対効果が問題となるので、効果があらわれることが必要だ。行政がかかわるとか、第三セクターが運営するとか、計画はできるので

	<p>はないかとは思っている。箱モノは難しいということはあるが、皆が集中して作り、集まるのであれば、できるのかなという気はしている。</p>
山本委員	<p>それは一次加工（半製品）か。一次加工で成功している事例はあるが、製品をつくるのはむずかしい。成功事例もなかなかない。</p>
木村委員	<p>宿毛にある「直七」は一次製品で、液を冷凍保存している。冷凍保存できる施設が必要となる。市場の近くに冷凍庫があるといい。</p>
吉村課長	<p>個人的な考えだが、加工場、低温倉庫、冷凍倉庫を一体として造ると効率的ではないか。野菜部門が使いたいということであれば、そういう形での利用も可能である。</p>
木村委員	<p>松山に倉庫があれば、そこから出荷してもいいわけで、一次加工したものは可能性がある。</p>
山本委員	<p>河内晩柑は夏だけなのでロットがないと商売にならない。</p>
松田委員	<p>酒井委員さんがやればいいんじゃないですか。</p>
酒井委員	<p>いえいえ。</p>
I R C	<p>マルエムの河内晩柑は、えひめ飲料がこれだけの量は確保したいということがあり、量を指定して出してくれと言っているようだ。27年産のように生産の量が少ない場合にはマルエムとしては仕方なくといったところと聞いている。加工場を造ったとしても、柑橘全般を絞るようにしないと足りないのではないか。また、柑橘だけの加工では年間稼働が低いため、取り扱いを野菜や水産物の一次産品全般に広げられることも考えられる。ただ、農産物と水産物が同じラインで扱われることは考えにくい。そのため、施設の配置をどうするかなど考えなければならないことは多くある。</p>
吉村課長	<p>お試しで給食センターなどを利用して、少量でもそこでスタートしてみるというのも手だと思う。</p>

吉田委員	<p>ピールを作って、売っているが、色々加工品に労力使うと販売に労力を回せないで、OEMにしている。皮に含む物質の機能性表示もしており、結構引き合いが強い。加工に技術があれば、「おいしい」が大前提となるが、ジュースでもこの絞り方ならといったような技術が入れば、差別化にもつながる。販売先は自社の個人客である。エンドユーザーに受ける場所でないと販売できない。</p>
I R C	<p>(アンケート調査について)</p> <p>I R C 灘野が配布資料に基づいて説明し、アンケートの内容について、逐次修正等の意見交換を行った。出された意見を参考に修正し、10月14日発送、10月28日締切、その後お礼状兼督促状を発送し、11月4日にデータ締切とする。また、10月28日の回収状況を協議会委員に連絡し、回答をいただいている先に対して、委員から協力を依頼するよう働きかけていただくこと旨の了承を得た。</p>
近平	<p>(4. 今後のスケジュールについて)</p> <p>(三原村農業公社の視察について)</p> <p>農林課 近平が10月13日に視察を行うことを説明し、委員の積極的な参加をお願いした。</p>
I R C	<p>(座談会、協議会等のスケジュール確認について)</p> <p>I R C 灘野が配布資料に基づいて、第3回協議会を11月21～30日の間に、第2回座談会を12月下旬から来年1月上旬に行いたい旨を説明した。委員からの要望を受けて、具体的な日程を設定したのち町農林課から開催の案内をする旨の了承を得た。</p>
吉村課長	<p>その他、ご意見はないか。ないようならこれで本協議を終了する。</p> <p>(閉会)</p>